

# 公定歩合引下げに関する政策委員会議長談

(昭和50年8月12日)

最近の経済情勢をみると、需要の伸び悩みから景気回復の動きは鈍く、一方物価は落ち着き傾向を続けている。

こうした情勢にかんがみ、日本銀行はこの際公定歩合を0.5%引き下げることが適当と認め、8月13日から実施することとした。

本行としては、今回の措置が景気の着実な回復に寄与することを期待するが、今後とも物価の安定を定着させるため引き続き慎重な政策運営を図っていく方針である。

## 日本銀行基準割引歩合および貸付利子歩合の変更

(昭和50年8月13日実施)

1. 商業手形割引歩合ならびに国債、  
特に指定する債券または商業手形  
に準ずる手形を担保とする貸付利  
子歩合 年7.5% (0.5%引下げ)
2. その他のものを担保とする貸付利  
子歩合 年7.75% (0.5%引下げ)

## 公定歩合の引下げについて

日本銀行はさる4月と6月に公定歩合の引下げを実施したが、最近の経済情勢をみると、生産は緩やかながら増加傾向を続けているものの出荷は一進一退の動きにとどまっており、景気回復の動きは引き続き鈍い。

需要の動向をみると住宅投資、財政支出は増加しているが、設備投資の沈静、輸出の停滞が続いているほか個人消費も伸び悩んでいるなど、最終需要の回復ははかばかしくない。こうした状況を映じて在庫調整もこのところやや足踏み状態となっている。

一方物価の動向は、卸売物価が引き続き横ばい基調を続けており、商品市況もこのところ落ち着いた推移をたどっている。また消費者物価も6月横ばいのあと7月は小幅の上昇にとどまり、騰勢鈍化の傾向が続いている。

以上のような情勢にかんがみ、日本銀行はこの際公定歩合を0.5%引き下げることが適当と判断し、8月13日から実施することとしたものである。

日本銀行としては、これまでの公定歩合引下げおよび財政面から講じられてきた対策の効果に加えて、今回の措置が景気の着実な回復に寄与していくことを期待している。

しかしながら、物価は現在落ち着き傾向を続けているというものの先行きなお楽観を許さない状況にあることからして、今後とも物価の安定を定着させるため引き続き慎重な政策運営を図っていく方針である。

(昭和50年8月12日)